

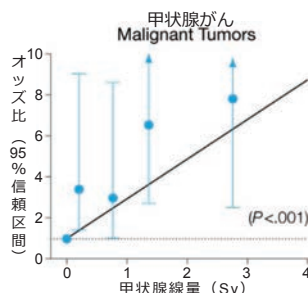


原爆被爆者
データ

mSv：ミリシーベルト

甲状腺線量	平均線量 (mSv)	対象 (人)	患者 (人)	オッズ比※ (95%信頼区間)
<5mSv	—	755	33	1
5～100mSv	32	936	36	0.85 (0.52～1.39)
100～500mSv	241	445	22	1.12 (0.64～1.95)
500mSv<	1237	236	15	1.44 (0.75～2.67)

出典：Hayashi et al., Cancer, 116, 1646, 2010



出典：（公財）放射線影響研究所, JAMA 2006;295(9):1011-1022

※オッズ比：ある事象の起こりやすさを2つの集団で比較したときの、統計学的な尺度。
オッズ比が1より大きいとき、対象とする事象が起こりやすいことを示します。
それぞれの集団である事象が起こる確率をp（第1集団）、q（第2集団）としたとき、
オッズ比は次の式で与えられます。
$$p \text{ のオッズ } \div q \text{ のオッズ } = p / (1-p) \div q / (1-q)$$

95%信頼区間が1を含んでいなければ、統計学的に有意であるといえます。

原爆被爆者における甲状腺がんの発症についてオッズ比（ある事象の起こりやすさを2つの集団で比較したときの統計学的な尺度）を見てみると、線量が高くなるほど、甲状腺がんのリスクが高くなることが示されています。甲状腺微小がんに限った調査では*、有意な差は見られませんでした。等価線量で100ミリシーベルトまではオッズ比が低く、100ミリシーベルトを超えるとオッズ比は高くなるということも示されています（オッズ比が1より大きいとき、対象とする事象が起こりやすいことを示します）。

*出典：“Radiation Dose-Response Relationships for Thyroid Nodules and Autoimmune Thyroid Diseases in Hiroshima and Nagasaki Atomic Bomb Survivors 55-58 Years After Radiation Exposure”（JAMA. 2006;295(9):1011-1022. doi:10.1001/jama.295.9.1011）

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成28年3月31日